

えひめの歴史文化モノ語り

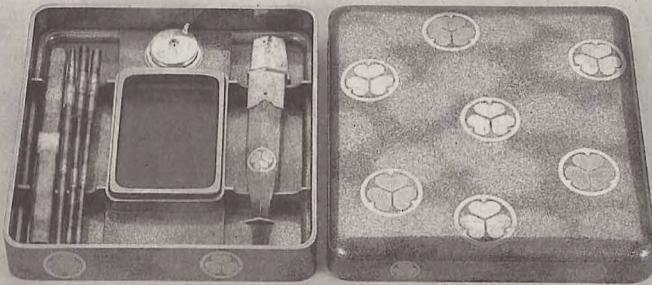
県歴博収蔵資料から

文化庁が運営する「文化遺産オンライン」というポータルサイトを「存じだろ」見ることができ、当館の主要な収蔵品もこのサイトを利用し、現在173件を公

尾張徳川家と同一意匠

うか。全国の博物館・美術館等から提供された文化財のさまざまな情報を誰でも開している。「三河武士のやかた家康

うか。全国の博物館・美術開している。



叢梨地葵紋散蒔繪硯箱。江戸時代。

縣歷史文化博物館藏

当館所蔵の硯箱で意匠などを紹介したい。叢葉地とは、黒漆塗りの上に金や銀の粉を濃淡をつけてまだらにまいた漆技法の一つである。かすみがかかったような幽玄な雰囲気のある漆地に金の蒔絵で丸に葵紋を散らし、華やかさも備えた意匠である。

に文化財オノラインで検索したところ、同じデザインの硯箱の存在に気付いた。そうだ。画像を送つてもらうと、確かに蒔絵デザインが同じで驚いた。見つけた学芸員は興奮したに違ない。

所蔵しており、3月下旬から始まる展覧会の準備中

こと、収納する外箱を2重
にするなど厳重に保管し
てあることから将軍家や御
三家からの拝領品であろ
うと推測するにござりまつ
いた。

館」の学芸員から「叢梨地 葵紋散蒔繪硯箱（むらなし じあおいもんちらしまきえすずりばこ）」について問い合わせがあった。同館では、尾張徳川家11代斉温（なりはる）に嫁いだ俊恭院福君（しゅんきょういんさちぎみ）所用の硯箱を所蔵しており、3月下旬から始まる展覧会の準備中に文化財オンラインで検索したところ、同じデザインの硯箱の存在に気付いたそうだ。画像を送つてもらいうと、確かに蒔繪デザインが同じで驚いた。見つけた学芸員は興奮したに違いない。

当館所蔵の硯箱で意匠などを紹介したい。叢梨地とは、黒漆塗りの上に金や銀の粉を濃淡をつけてまだらにまいた漆技法の一つである。かすみがかかったよう

硯箱の中には、中央の硯台に銀製の水滴と硯をはじめ、筆2本・刀子（とうす）・錐（きり）・墨挟み・墨にそろっている。これまで西条藩松平家伝来品であること以外の情報ではなく、紋ではなく丸に葵紋であること、収納する外箱を2重にすることから将軍家や御三家からの拝領品であろうと推測するにとどまっていた。

俊恭院福君について調べてみると、関白近衛家から1836（天保7）年に斉温に嫁ぎ、40（天保11）年に亡くなつており、硯箱は約4年間のどこかで所有したことになる。尾張徳川家と西条藩松平家に伝わったことのあるのか、興味は尽き

(専門学芸員・宇都宮美紀)
△随时掲載します

△随时掲載します△